

2021年小教区評議会役員研修会

サイクルテーマ①「教会と福音宣教の理解」

日時：2021年10月2日(土) ZOOM ミーティング

✠パウロ大塚喜直

分かち合いテーマ：コロナ禍における信仰と福音宣教

- ① コロナ禍の体験が続く中で、良かったと思えることは何ですか
- ② 個人として、教会共同体として、どのようなことが学べるとおもいますか
- ③ 今後、個人として、教会共同体として、何を大切にしていきたいですか

① 『ウィズ・コロナ』への意識を

- ・この一年半、コロナ禍が続く中、感染拡大と収束が繰り返され、さまざまな変異株による感染の波は留まるところを知りません。
- ・過去のペストなどの流行・パンデミックの後、社会が元の状態に戻り得ないことは歴史が示しています。
- ・コロナ禍の終息を見据えて、当分は『ウィズ・コロナ』の生活が予想されますが、ただこの災禍をじっと耐え忍ぶよう呼びかけるのではなく、傷つけられた教会の連帯と一致を取り戻す準備をすべきではないでしょうか。

② 受けたダメージの共有

- ・教会活動の自粛によって、教会は少なからずダメージを受けているはずです。
- ・対面（集会）の機会を奪われ、共同体のつながりが希薄になり、孤立する信徒もおられる。
- ・感染対策やミサ中止・再開の時期で、司牧者・信徒間で意識の違いや不寛容が生じる。

③ 信仰共同体としての気づき

- ・わたしたちは、日曜日だけの共同体ではなかったか？
教皇フランシスコ × 『パートタイムの信仰』◎ 『フルタイムの信仰』
- ・目に見えない教会共同体の絆を深めることの大切さに気付く（年頭書簡）
- ・典礼や活動以外のつながりがあったかどうか。
- ・コロナ禍の前に、社会とのつながりがあったかどうか。

④ 新たな福音宣教のスタートを切るための準備

- ・制約なく教会に集うことができる時、どのような共同体として存在しているのでしょうか。
- ・秘跡のみを目的とした信仰生活から、秘跡を生活と宣教で生きる信仰生活への歩みを。
- ・教皇フランシスコ：「宣教を中心にした司牧では、『いつもこうしてきた』という安易な司牧基準を捨てなければなりません」
- ・教皇が言われる、社会の中での「野戦病院」としての教会の役割に挑戦する。
など。